

繁栄期の料亭、ホテル建築群

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて北海道で最も豪華なレストランやホテルは小樽にありました。毎年春に小樽沖に産卵するニシンの大群から富を築いた裕福な漁師や商人をもてなしていました。

19 世紀末までにニシンの年間漁獲量は 9 万 トン近くに達し、「ニシンのゴールドラッシュ」により労働者、商人、富を求める人々がこの都市に流入しました。ニシンの大部分は肥料に加工され、本州南西部の綿花畑や藍畑に出荷されました。

小樽の新興富裕層向けのレストランや美術店、本州や海外からの承認をもてなす旅館やホテルがオープンしました。大正時代（1912 年-1926 年）には約 600 人の芸妓がおり、小樽の高級料亭で客をもてなしていました。これらのレストランのほとんどは 20 世紀半ばの経済低迷に伴って取り壊されました。魁陽亭や光亭などいくつかが残っていますが非公開となっています。

現在アンワインドホテルとして営業している越中屋ホテルは小樽初の欧風ホテルです。小樽に来る海外貿易商や商人の増加に対応するために 1931 年に建設されました。このホテルは近くにある越中屋旅館の別館で、オーナーはモダンで豪華なホテルの方が海外からのゲストにとってより魅力的だと考えました。